

笹野マックス 仙台に新倉庫整備

ステンレス、加工部品などを保管する。老朽化した既存倉庫の建て替えに合わせ、外構や防犯設備も整備し、保管・物流機能を拡充した。

新倉庫には、三次元測定機の設置を見据え

た検査スペースも確保。導入費用は約2400万円で、年内の導入を目指す。加工先で

同社は本社で航空宇宙品質マネジメント規格「JIS-Q-9100」の認証を取得済み。品質保証機能を強化し、航空機分野の大手ティア1メーカーなどが求める品質水準に対応する。加工会社と顧客の間に入り、品質確認まで担う商社機能を高める考えだ。

航空・宇宙・防衛分野では営業体制も拡充した。重工大手など航空機関連企業への営業経験を持つ人材を採用し、航空宇宙機材チームを増員。米カリフォルニア州のディストリビューターとも契約し、米国製航空材料の調達ルートを確保した。中国からの調達に制約がある防衛用途へ

仙台支店では航空・防衛関連への対応に加えて、東北地区の自動車・半導体関連市場の開拓を進める。自動車部品メーカーや半導体製造装置関連企業への営業を強化するほか、北関東まで活動範囲を広げ、航空・宇宙・防衛関連を含む新規案件の獲得を目指す。

各分野への拡販と並行して既存顧客へのサービス向上も図る。新倉庫の活用により在庫機能を強化し、安定供給や短納期対応を通じて顧客との取引拡大も目指す。

航空・宇宙・防衛関連の売上高は現状で約2億円。今後は機械加工品に加え、顧客から調達相談が寄せられている鋳造品や、金属3Dプリンターを活用した少量生産品への対応も検討する。材料供給から品質保証までを担

笹野社長は、「需要が伸びる今のうちに顧客を獲得したい」と話す。品質保証体制と営業力を強化し、航空・宇宙・防衛関連の売上高を5年以内に10億円へ引き上げたい考えだ。